高山市の乳幼児をもつ保護者の子育てに関する現状と課題

目白大学人間学部
〇西山里利　峯村恒平

研究の背景：国の取り組み政策

- 2023年4月　こども家庭庁　創設
- 2023年12月　こども未来戦略　決定

妊娠、出産から大学までライフイベンツに沿った長期的なスパンでの政策が掲げられ、社会全体で子どもと子育て家庭を支援する体制が整えられつつある

- 2026年　　「こども誰でも通園制度」開始（予定）

23年12月決定

こども未来戦略MAP

妊娠

出産

伴走型相談支援スタート

不安なことはなんでも相談できる

☆10万円相当の経済的支援も

伴走型支援と家計の応援は、子育て期をしっかりカバー！

出産育児一時金

23年4月～ 42万円 ▶ 50万円

産後ケア

拡大中

裏面の1へ

児童手当拡充

24年10月開始へ

裏面の2へ

児童扶養手当拡充

所得制限撤廃 第三子以降は3万円に増額

裏面の4へ

男性育休取得推進

☆育休給付の給付率 UP 手取り10割相当に 25年度開始へ

裏面の3へ

中小企業の育休にインセンティブ 24年1月開始

自営業・フリーランス等の育児期間の国民年金保険料免除

26年度開始へ

住宅支援

子育て世帯へ今後10年間で30万戸確保

公営住宅優先入居 民間住宅ストック活用

時短勤務時の賃金の10%を支給

☆時短給付

25年度開始へ

裏面の3へ

フラット35の金利引下げも 24年2月開始

住宅支援でひろびろ子育て

保育士の配置基準改正と処遇改善も

☆こども誰でも通園制度

26年度全国実施へ

働いていなくても時間単位で通える

裏面の1へ

障害児等の地域での支援を強化

裏面の5へ

看護休暇

小学校入学

放課後児童クラブ拡充

こども・若者の安全・安心な居場所づくり

裏面の5へ

医療費負担軽減

3.6兆円 UP

こども一人当たり子育て支援（GDP比）はOECDトップ水準の約16%に

※OECDトップ水準のスウェーデンは15.4%

中学校・高校入学

高校生年代まで延長

児童手当延長☆

24年10月開始へ

裏面の2へ

ひとり親等のこどもへの学習支援

裏面の4へ

大学入学

多子世帯の授業料等を無償化

大学等の授業料等減免支援拡大

24、25年度開始へ

裏面の6へ

修士段階の学生に導入

授業料後払い制度

24年秋～

☆は、企業や全世代が応援して拠出する「子ども・子育て支援金」を充てて実施する施策です。

各施策の詳細はこちら（こども家庭庁公式HP）

1 こんなあなたに



すべてのこどもと子育てにもっと笑顔を

子育て支援の充実

伴走型相談支援（10万円相当の経済的支援も）や産後ケア、こども誰でも通園制度で切れ目なく寄り添った育児支援で安心して子育て。すべてのこどもの育ちを応援します。



研究の背景：高山市

- 2024年度　第9次総合計画の策定
- 2023年度　子育てに関する現状と課題を明らかにする

調査のねらい：市の計画改定に反映させるための基礎資料
前回2018年度に実施
↓
Webによる質問紙調査の実施
対象：市内の乳幼児をもつ保護者

研究目的

- 高山市の施策立案の基礎的資料とするために，保護者を対象としたWebによる質問紙調査を実施し，子育て環境の現状と課題を明らかにする。
- 乳幼児の幼児教育・保育事業，病児保育，一時預かり事業の結果について，前回調査である2018（平成30）年の乳幼児の保護者を対象とした調査結果（有効回答数466件）と比較して報告する。

研究方法

- 対象：住民基本台帳から無作為抽出した乳幼児の保護者1,000名
- 調査方法：Survey Monkey（Survey Monkey社製）によるWeb調査
- 調査期間：2023年11月1日（発送）～2023年11月30日
- 依頼方法：QRコードを付した調査協力の依頼文「子育て環境に関する調査」を宛名の子どもの保護者に郵送
- 調査項目：属性，生活実態とニーズで構成される全98問（最大）

- 分析方法：単純集計とクロス集計，自由記述は内容分析
- 倫理的配慮：依頼文に以下を明記

・研究の主旨，目的および方法

・協力は自由意思であること

・協力しないことで不利益を被ることはないこと

・無記名回答であること

・統計学的処理により個人は特定されないこと

・回答にかかる時間等

データ取得時：Survey MonkeyのE-Mailアドレス自動取得の設定解除

結果

- 有効回収数（有効回答率）：410名（41.0%）

  ※　全配付数（小学生・中高生の保護者向け調査）のうち不達3部

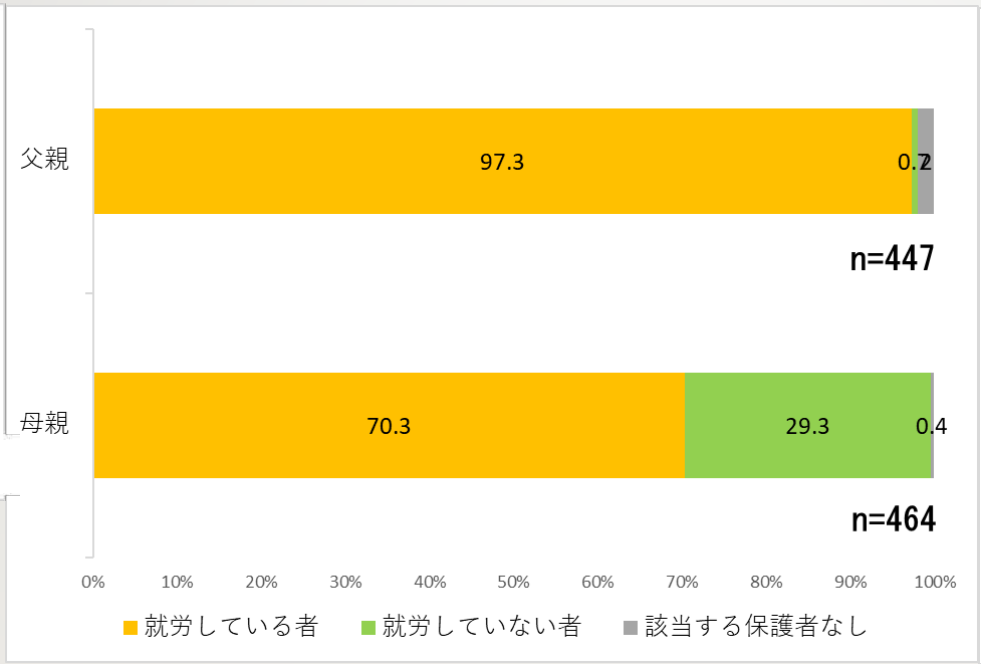
＜今回の報告＞

- 乳幼児の幼児教育・保育事業
- 病児保育
- 一時預かり事業

属性



図１　回答者



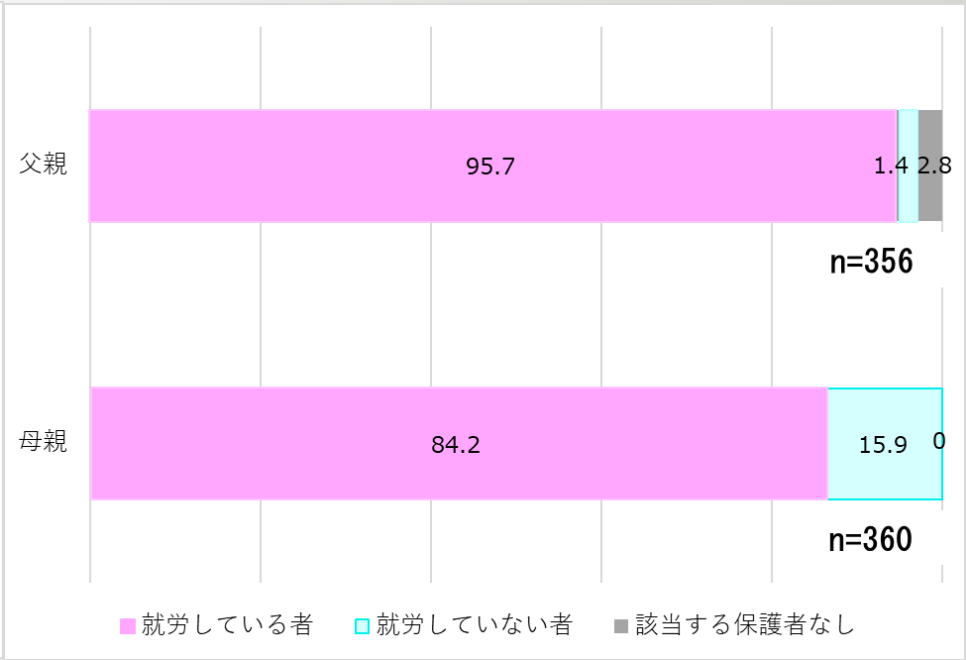


図２　就労の有無（左：前回･右：今回）

定期的に利用している教育・保育事業

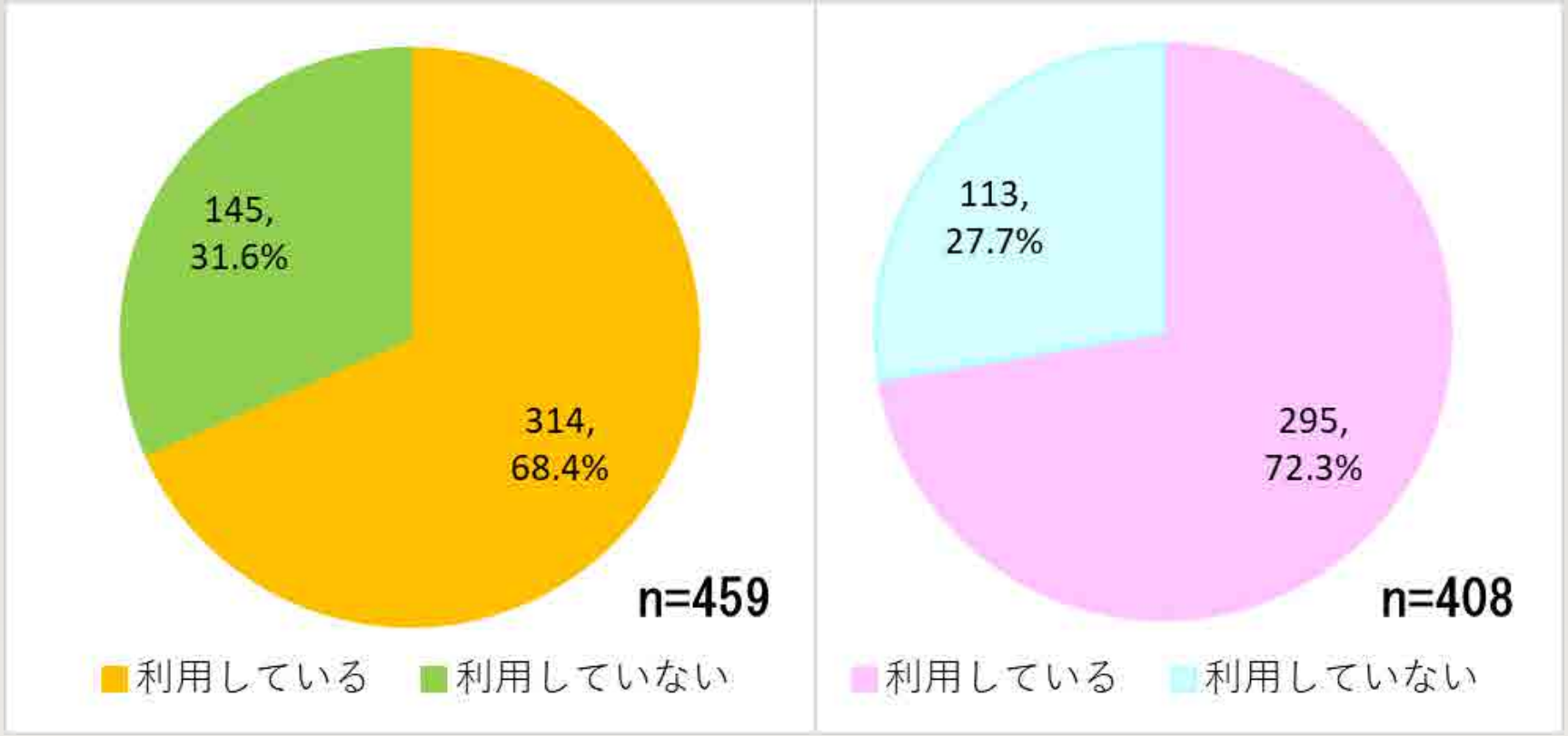


図3　定期的に利用している教育・保育事業の有無（左：前回・右：今回）

定期的に利用している教育・保育事業の内訳

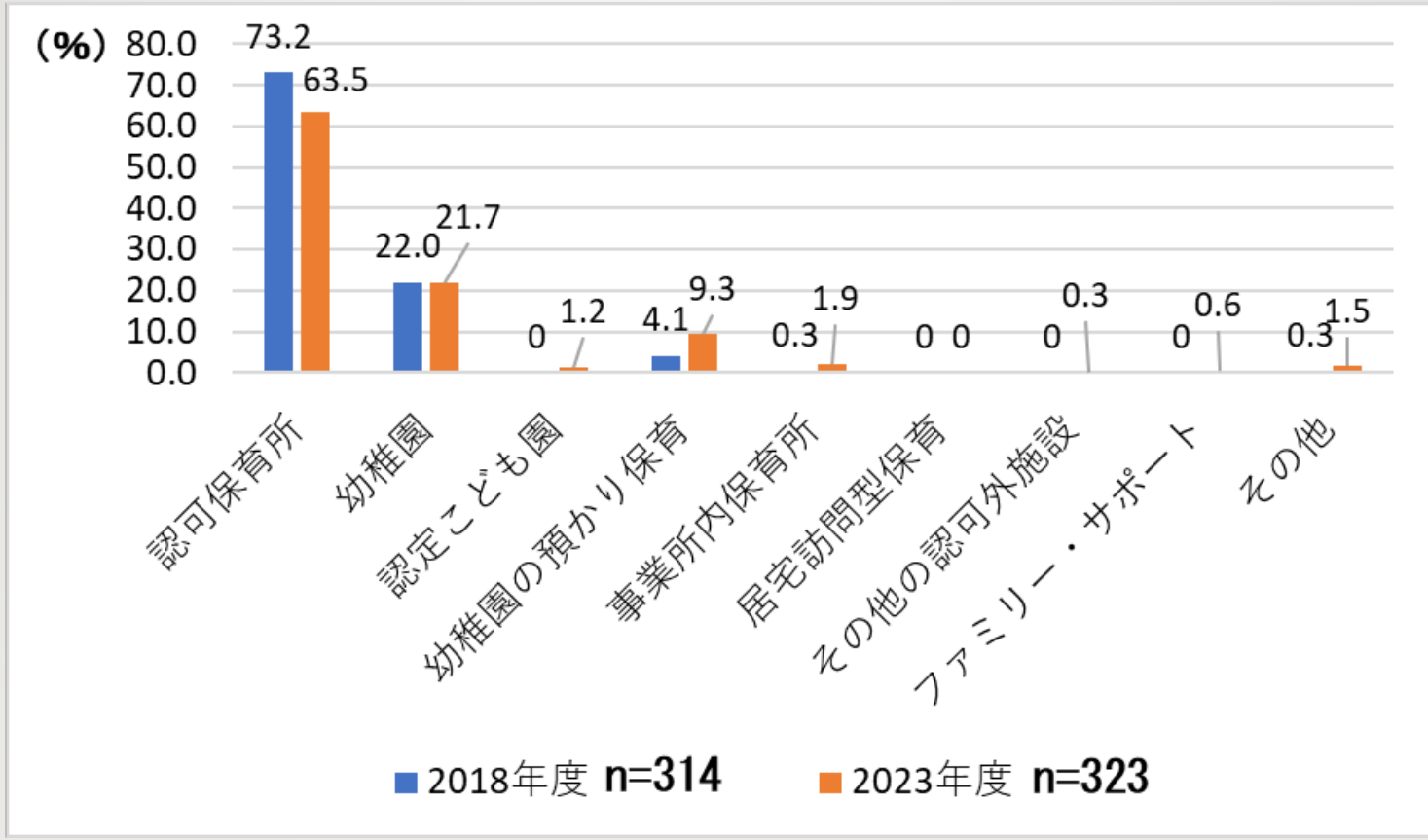
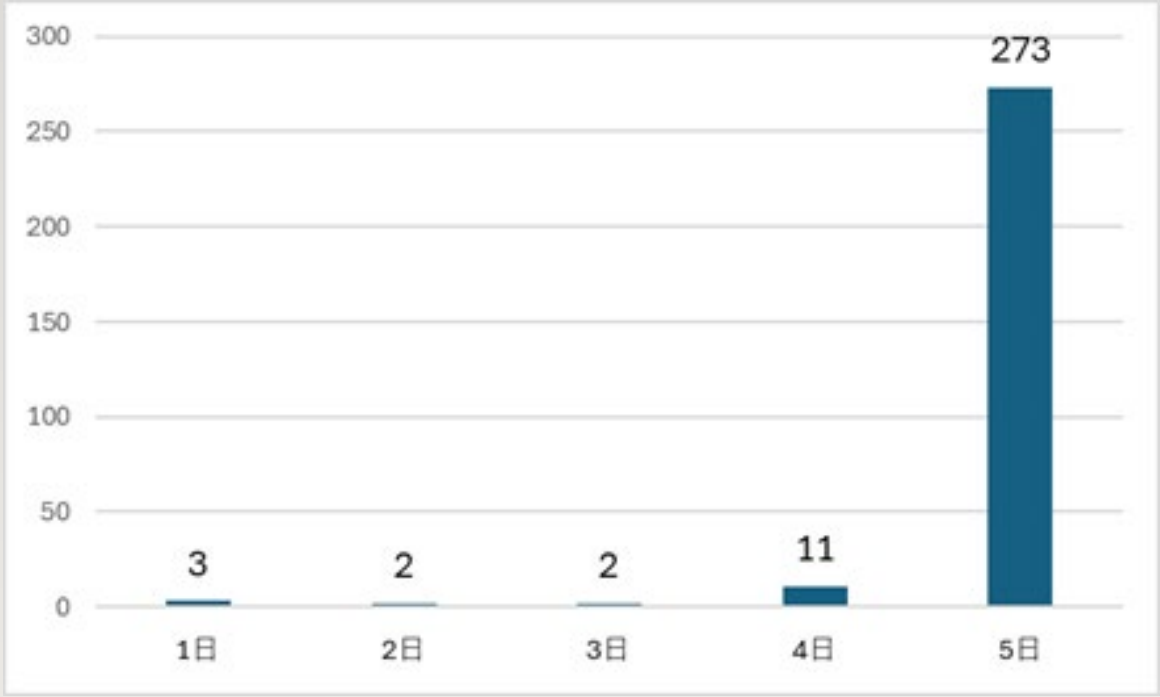


図４　定期的に利用している教育・保育事業の内訳（複数回答）

定期的に利用している教育・保育事業

平日の利用：現在の状況と希望日数



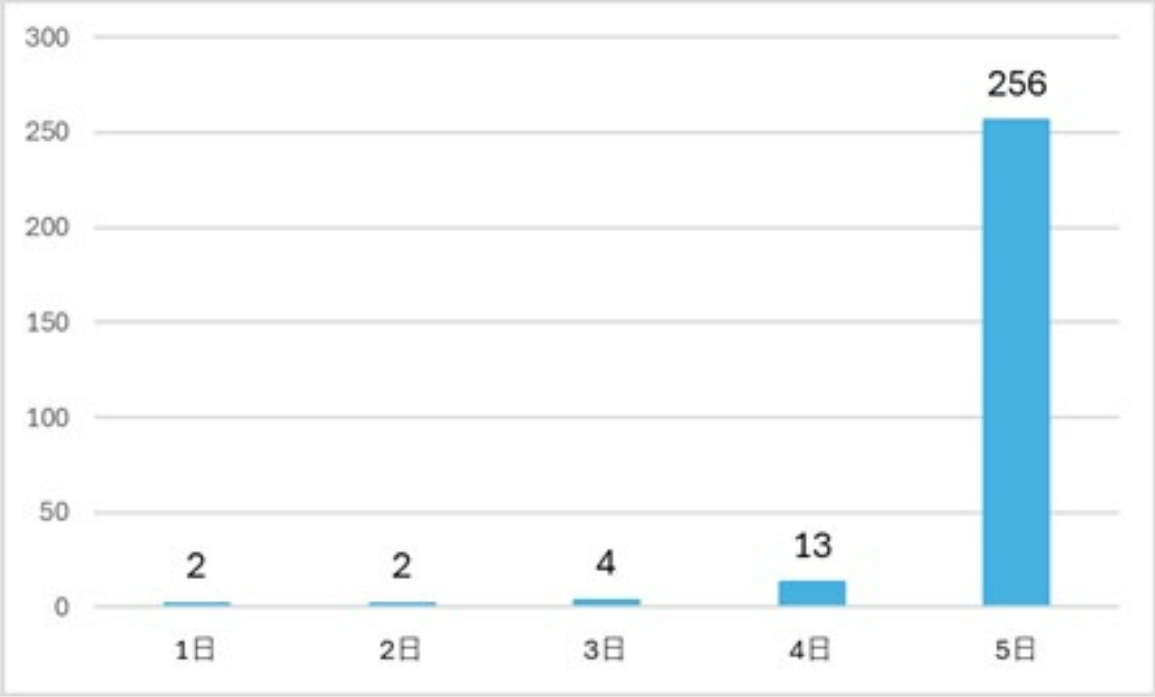


図５　平日の利用（左：現在・右：希望）

定期的に利用している教育・保育事業

平日の利用時間：現在の状況と希望時間

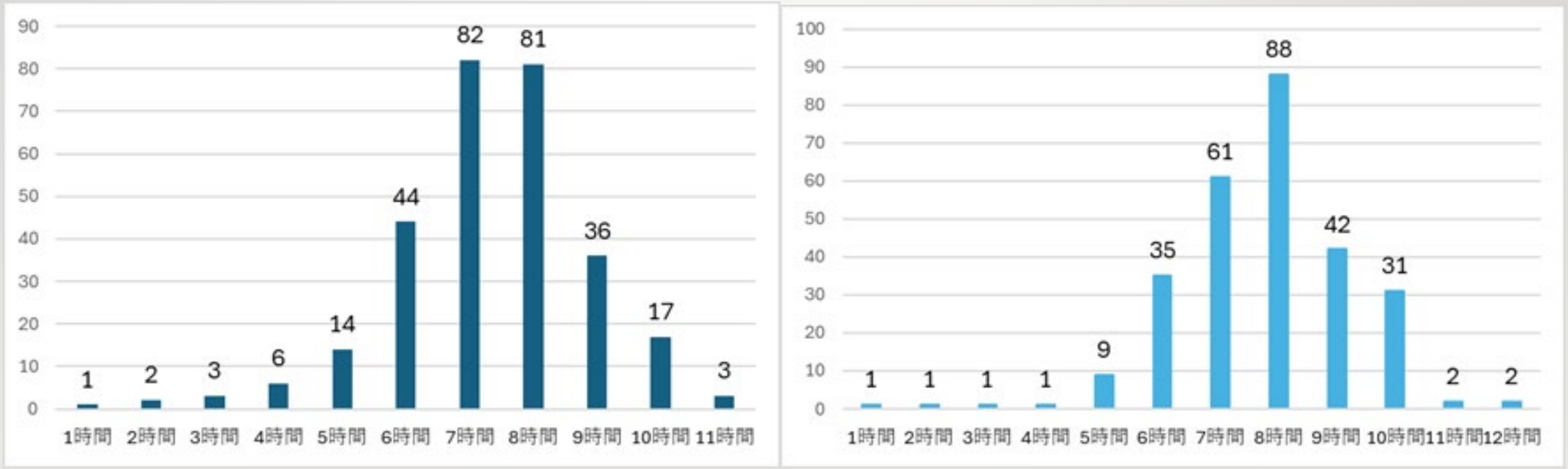


図６　平日の利用時間（左：現在・右：希望）

定期的に利用している教育・保育事業

平日以外の利用希望

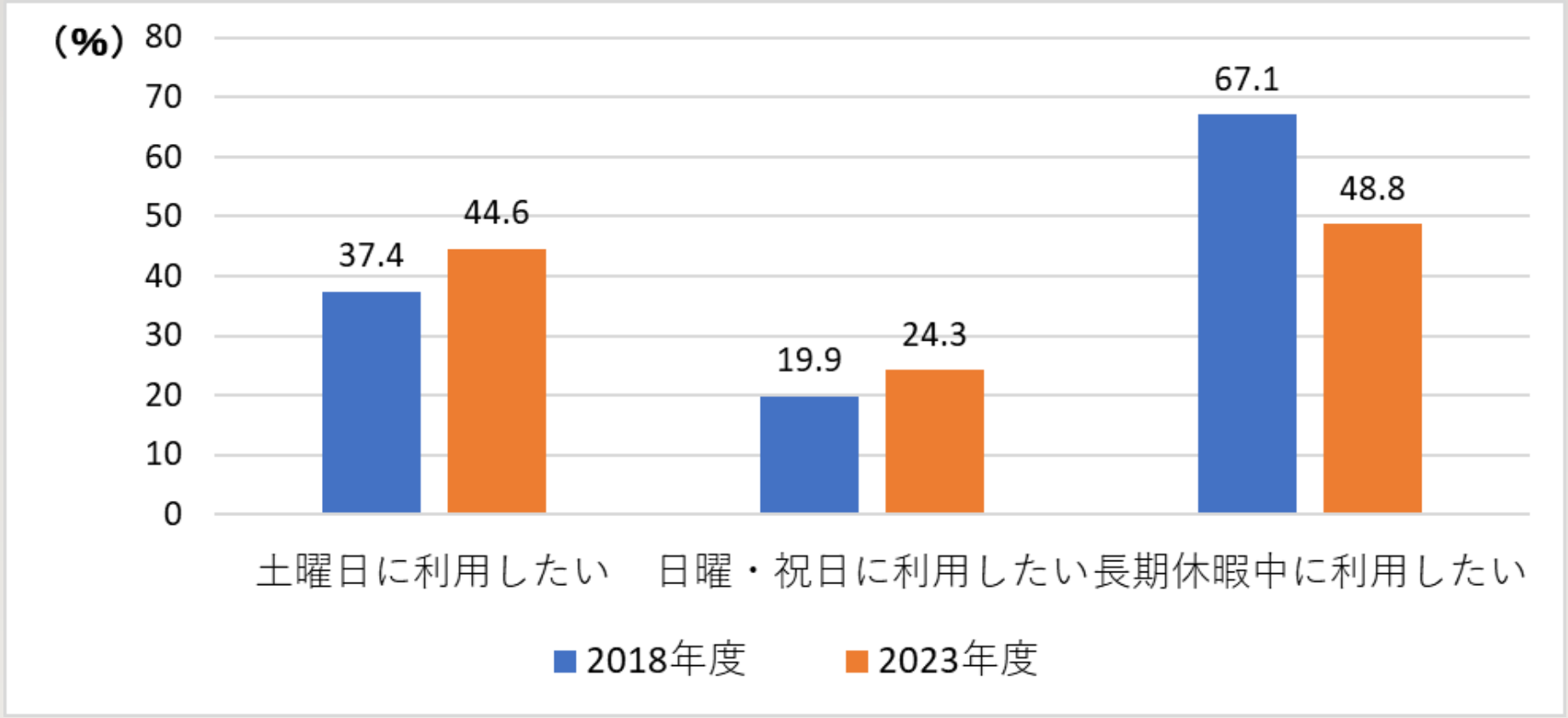


図７　平日以外の利用希望（左：前回・右：今回）

定期的に利用している教育・保育事業

利用理由（平日）・希望理由（日曜・祝日）

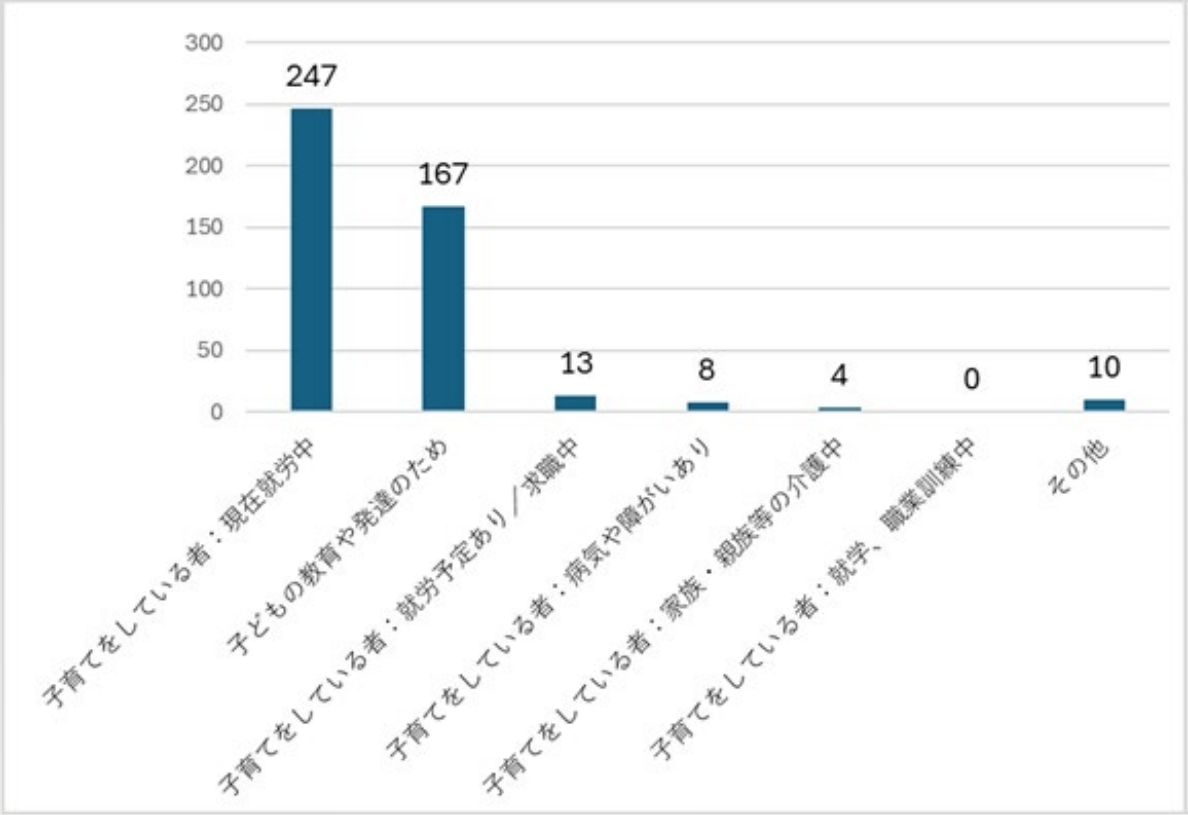


図８　利用理由（平日）

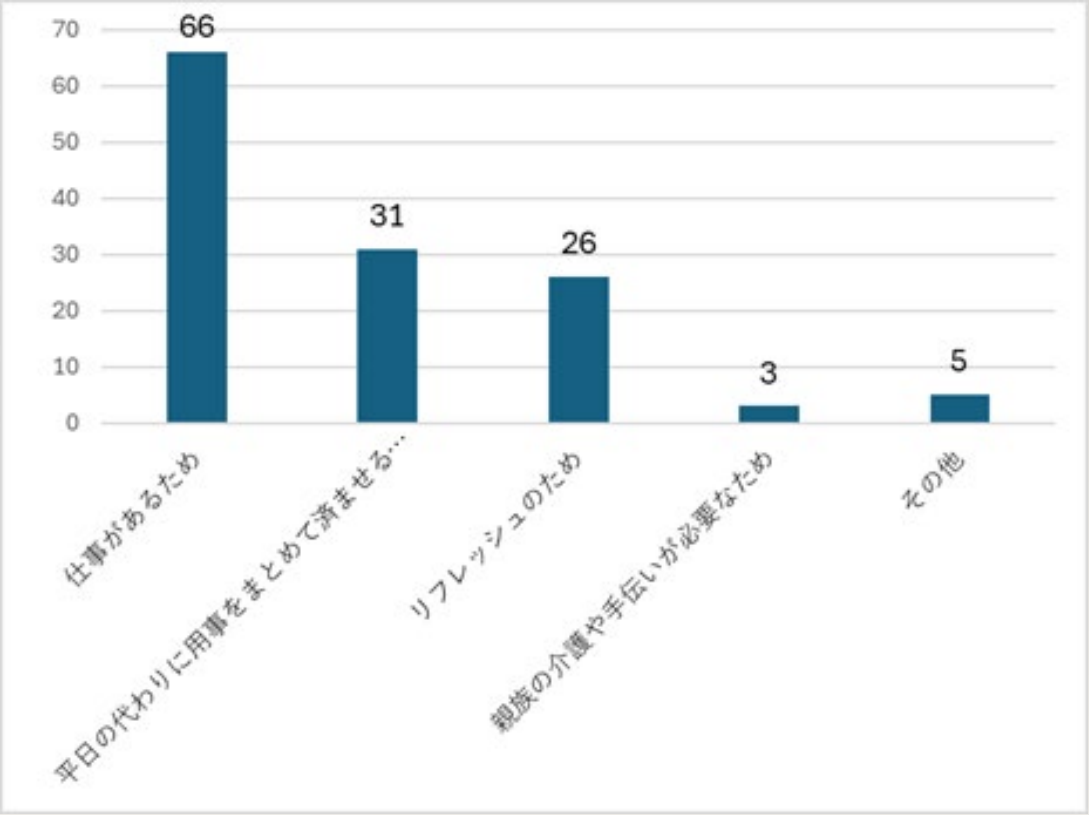


図９　利用希望の理由（日曜・祝日）

病児保育：子どもの病気やケガによる欠席で対応した方法

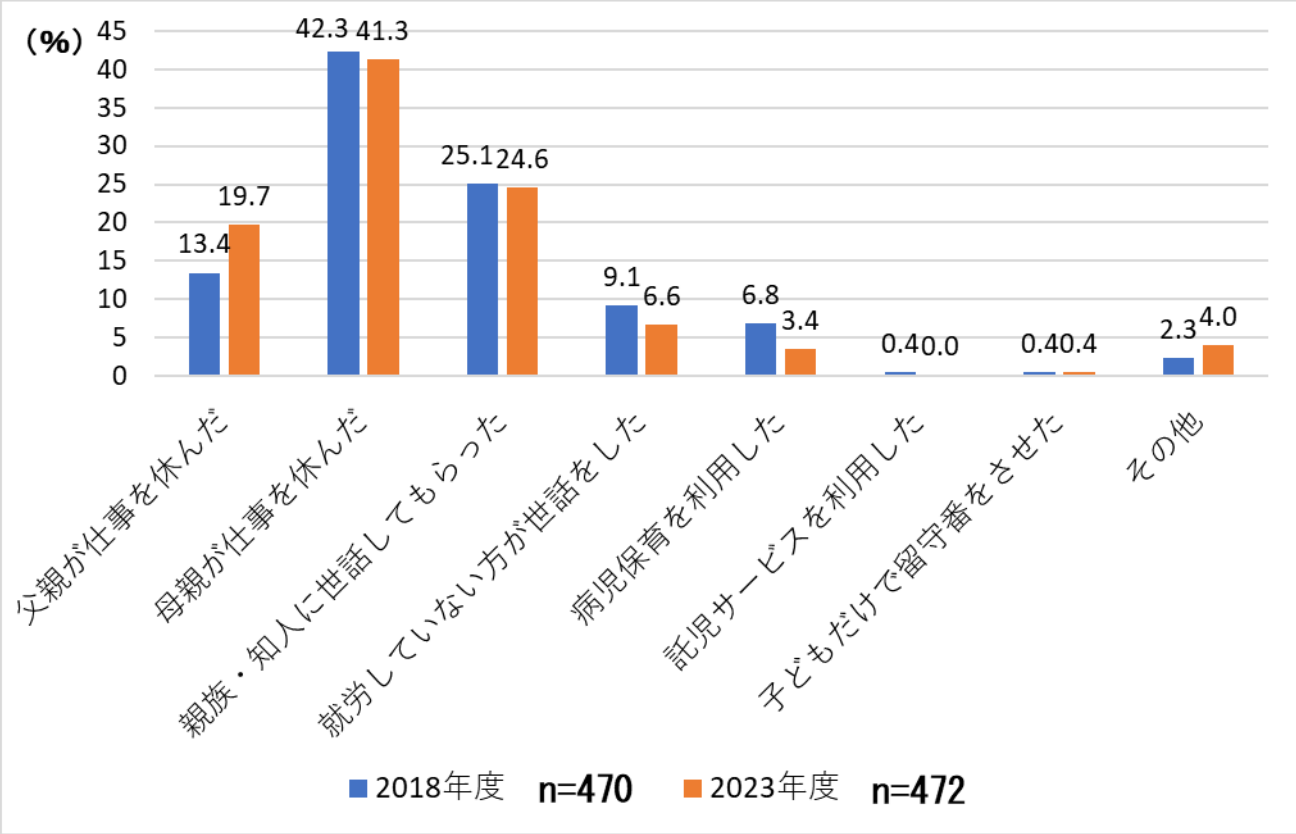


表１　その他の内訳（今回）

対応		日数
テレワーク・在宅勤務	仕事しながら世話をした	14日
	在宅ワークの母親が仕事をしながら家で看病した	7日
	父親が在宅勤務で世話をした	5日
	自宅で仕事をしている母親が仕事量を減らしてみた	―
	自宅で仕事をしながら子どもを見た	―
	テレワークに切り替えた	―
	休職中の母親が対応した	―
職場での世話	職場に連れて行った	15日
	職場（自営）に子どもを連れて行った	5日
	職場（自営）に連れていき仕事しながら寝かせた	―
	会社に連れていった	―
交代や依頼	自営業（両親）のため半日交代でみた	3日
	中３の上の子に学校を休んで世話して貰った	
	里親が自宅でみた	―
	入所中の母子生活支援施設の職員に依頼した	3日

図10　子どもの病気やケガによる欠席で対応した方法（左：前回・右：今回）

病児保育の利用希望

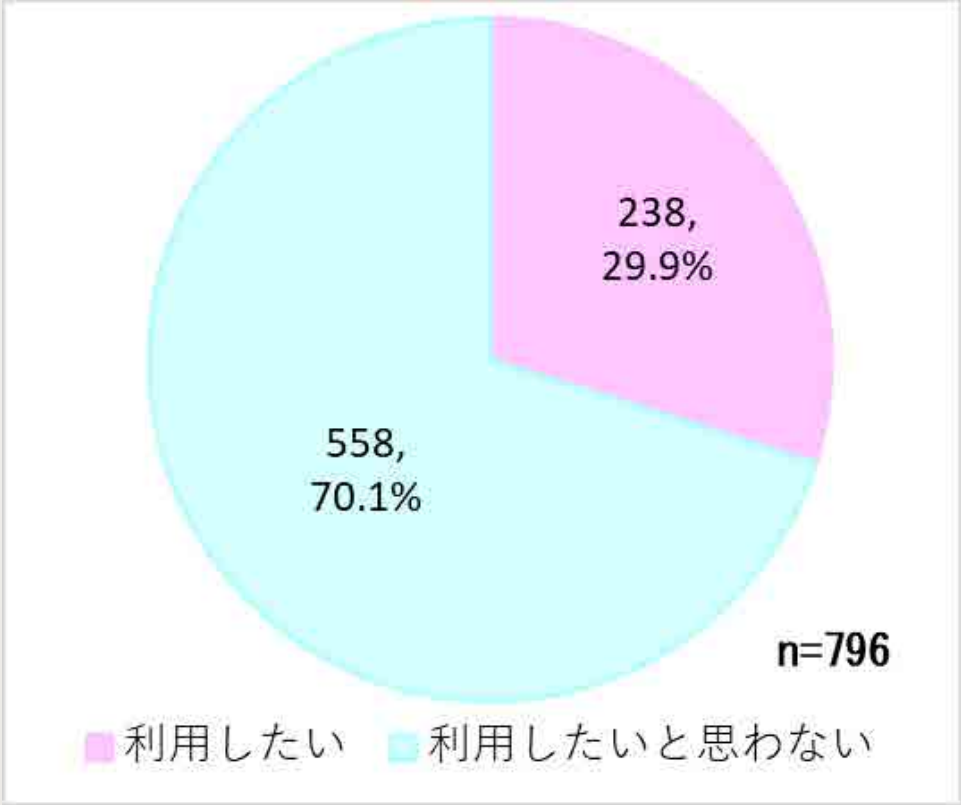


図11　病児保育の利用希望

病児保育の利用希望日数

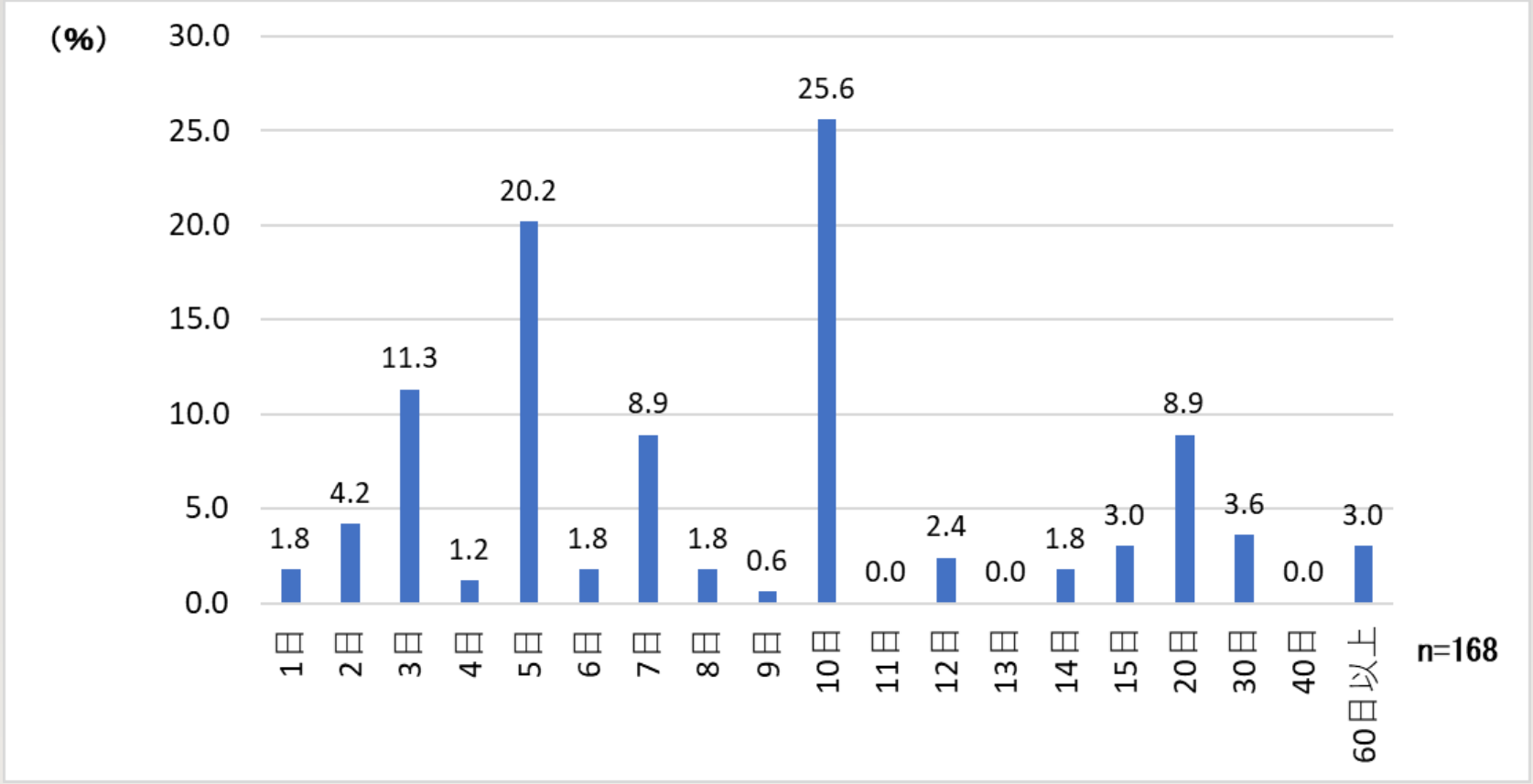


図12　病児保育の利用希望日数

一時預かり事業

利用状況

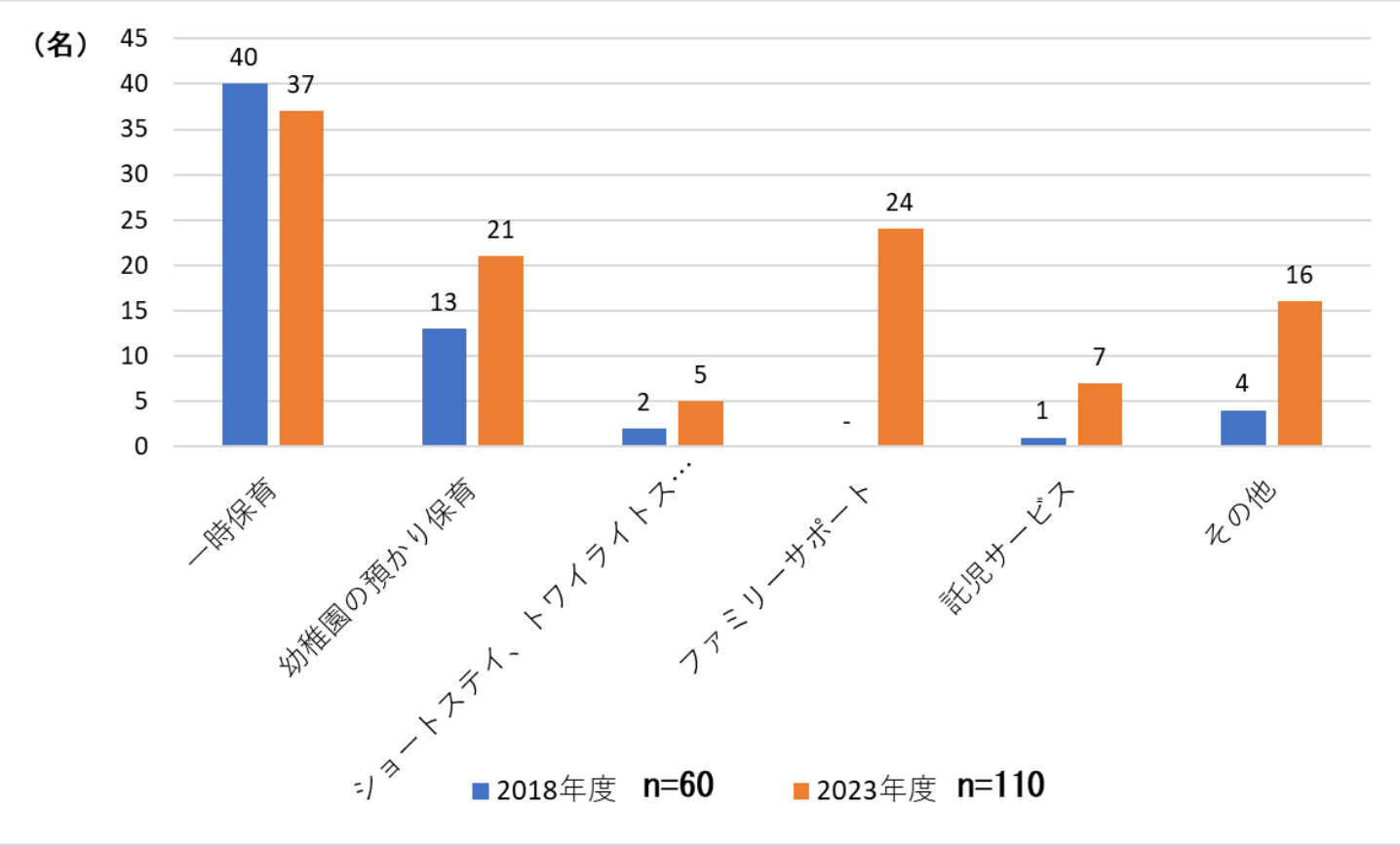


図13　一時預かりの利用状況（左：前回･右：今回）

一時預かり事業

不定期の一時預かり等の事業　利用希望

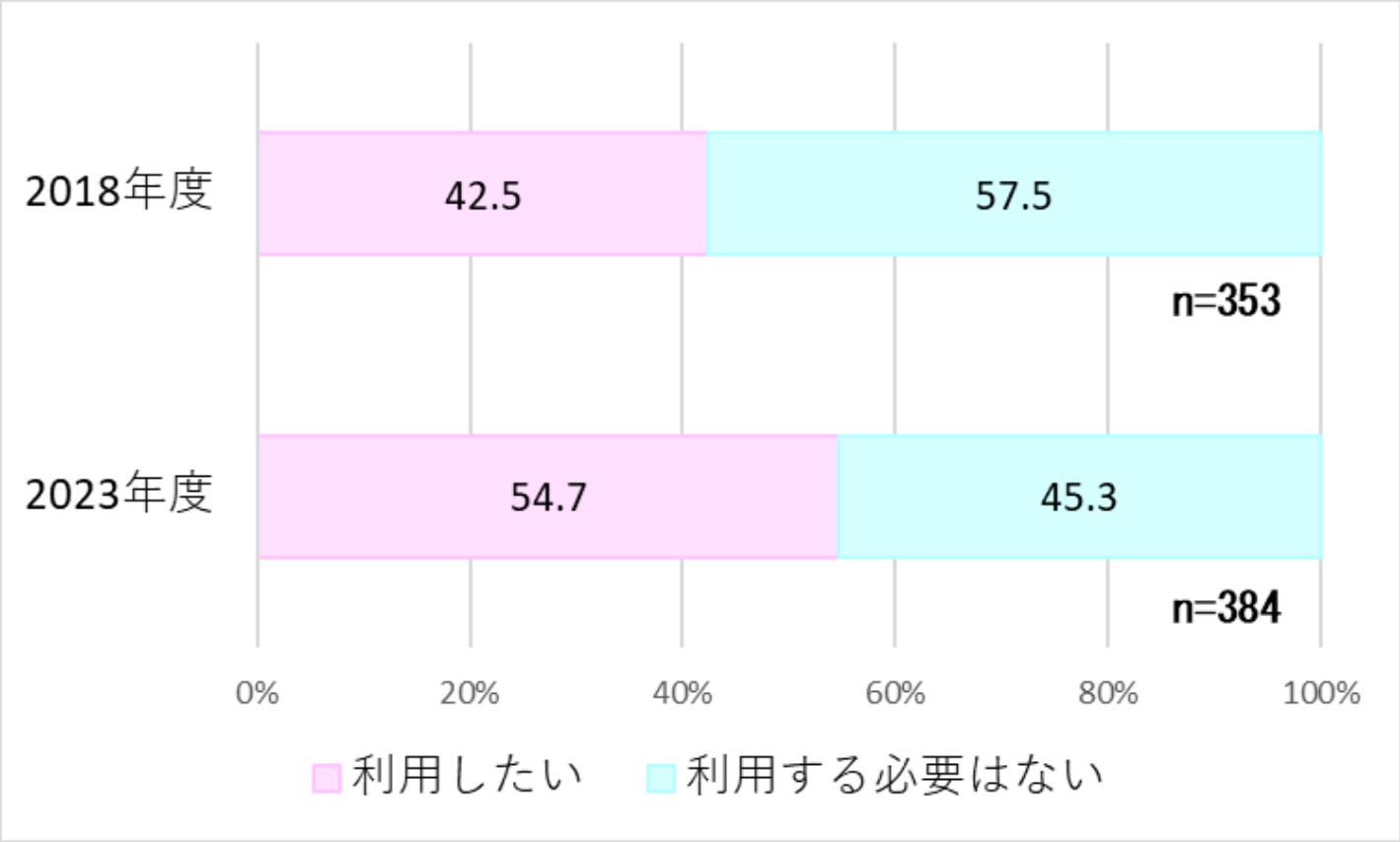


図14　不定期の一時預かり等の事業　利用希望（上：前回・下：今回）

考察（１）定期的に利用している教育・保育事業

- 利用状況や利用希望の結果から，保護者は子育て環境に関して概ね満足している。
- 現行の支援を継続していく必要がある。

考察（２）病児保育

- 病児保育の利用割合は微減であり，前回よりも父親が対応する割合が増えていた。
- こども家庭庁（2022）の調査では，働いている時に不便を感じたこととして，「実家に頼れないが病児保育も予約できない」，「ファミサポ・一時保育等の各種支援の申請手続きが煩雑で使いづらい」との回答が多かったことが報告されている。
- 病児保育は利用しづらい仕組みと認知不足があるとの指摘（園田，2021）もある。
- 簡便な手続きで利用可能な病児・病後児保育のネット予約システムを導入している自治体もある。
- 高山市では，かかりつけ医の診療情報提供書の内容等を確認後に受け入れが決定される。医師の治療方針や感染拡大防止等を第一義としつつ，持続可能な利用しやすい仕組みとなるよう検討していく必要がある。

考察（３）一時預かり事業

- 利用の回答数が前回より約2倍あり，2022年度開始の「ファミリーサポート」の利用者数も多い。
- 2026年度開始の「こども誰でも通園制度」に向け，モデル事業を実施した地域の保育者による中間評価（こども家庭庁，2023）では，時間・労力・業務量の増加が指摘されている。
- 今後，サービスの質保証と事業の円滑な運営の両立がなされるよう検討していく必要がある。

謝辞

- 研究協力者の皆様および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。
- 本研究は一般財団法人飛騨高山大学連携センターの受託研究「高山市における子育て環境に関する現状と課題，分析」により実施した。
- 利益相反の開示：利益相反に関わる開示事項はない。

参考文献

- こども家庭庁（2022）こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査について.
- 園田正樹（2021）発熱など子どもの急病時に安全な一時保育を実現する[病児保育]，母子保健.
- こども家庭庁（2023）保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業中間評価の集計結果について.

ご清聴ありがとうございました